

京田辺校地情報メディア施設「同志社ローム記念館」 「ユビキタス館」（いずれも仮称）を着工

同志社の新たな千年紀に向けた情報メディア施設の概要がまとまり、二〇〇三年十月の完成をめざし、同志社大学京田辺キャンパスの正門北側三五八一㎡の敷地に建設が始まった。

本施設は、法人施設と大学施設の二棟からなり、情報機器を活用した実践的教育の空間として利用する。二十一世紀の高度情報化時代に向けて、メディア・フロンティアの同志社を象徴する施設となることが期待される。

法人施設「同志社ローム記念館」は、国際中学・高校生を含む大学・女子大学の学生たちが自由にコンピュータやネットワークなどの最新技術を習得できる施設として、半導体メーカーのローム株式会社から多額の寄付をうけて建設される。情報発信、開発研究、交流を目的とし、階段状のオープン・テラス（劇場空間）、スタジオ機能、メディア・ラウンジ、プロジェクトルームなどを擁する地下一階、地上三階の建物となる。オープン・テラスの上方は大きな吹き抜け空間になっており、明るく開放的で、創造と交流にふさわしい環境を提供する。建物頂部は四つ

のガラスタワーで形成され、昼間は夕イヤモンドのように輝き、夜間には室内からのライトアップで浮かび上がる。

大学施設である「ユビキタス館」は、「同志社ローム記念館」の北側に隣接し、メディア演習室や屋外テラスなどの共有スペースで結ばれたシームレスな環境を提供する。メディア演習室や情報処理実習教室からなる施設は、正課授業での使用を目的とするが、最上階の遠隔講義室では今出川キャンパスや他大学などと結んだ授業を可能にするなど、情報機器を駆使した授業に対応できるさまざまな工夫が施される。

この二つの施設は、ITの進展により生み出された情報技術を研究の場から教育の場に移し、メディア・リテラシー技術を駆使して、多彩で高度な展開を見せる情報時代に適応した人材を育成することをめざして計画が進められてきた。本学の建学の精神を、新しい時代に展開し、学びの「知的好奇心」を「知的探求心」に進化させる施設として完成が急がれている。

正門側からみた外観〈完成予想図〉

